

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 835

事業名	淡路瓦屋根工事補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	産業振興部	商工観光課		款	商工費・7款
電話	0799 - 37 - 3012			項	商工費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)		目	商工振興費・2目
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり			
	まちづくりの目標	南あわじブランドの確立【商工業】			
	施策目標	異業種の連携により、地場産業の企業経営を革新し、高収益化と雇用の拡大をめざす			
該当する事業について「 」を選択		施策的事業		業務委託	負担金補助

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 市内の淡路瓦を使用した新築、増築若しくは葺き替え又は購入した者		対象人数(人) 18,150
	目的	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 伝統の淡路瓦産業で培われてきた甍街並み形成の保全と、淡路瓦の振興を目的としている。		
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 市内で住居用の家屋を新築・改築する際に、淡路瓦を使用していただいた家屋の世帯主に対し、奨励金を交付する。		
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) 震災時、瓦が重たいから家屋が倒壊したとの悪評が流れたことにより、淡路瓦から軽いスレート屋根への以降が目立った。これにより淡路瓦業界の低迷が続き、日本の文化である甍街並みの形成が崩れてきたことを受け、旧西淡町で平成8年度から奨励金の交付が始まった。		
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営	<input type="checkbox"/> 民間・その他 ()	
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度	~	平成 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
合併協議事務調整内容	(合併前におけるの事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 合併前は旧西淡町独自の制度であり、新市で調整することになった。旧西淡町は平成16年度同奨励金の受付を合併前の1月7日で終了した。 合併後、淡路瓦業界の振興のために、平成17年4月1日から市全域を対象とした奨励金交付要綱が施行された。			

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	奨励金交付件数	指標単位 件数			
	指標説明 (指標算出方法等)	新築・改築をした家屋の世帯主に対して、奨励金を交付した件数を実施指標とする。				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	247	163	157	125	
	実績値	163	157	125		
	達成度 (%)	66.0	96.3	79.6		-
目標値設定の考え方	平成17年度は、新築件数見込みを税務課評価件数(瓦葺住家)から147件と算出、改築件数見込みを西淡町の過去の件数から世帯比率で100件と算出して合計247件。平成18年度以降は前年度を目標値とする。					
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	瓦屋根新築住家 淡路瓦屋根の割合	指標単位 %			
	指標説明 (指標算出方法等)	麓街並み形成の保全を主に考えた場合、新築の家屋でどれだけ淡路瓦が使われたかが成果に繋がる。市内で新しく建てられた瓦屋根住家のうち、淡路瓦屋根の割合を指標とした。				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	60	60	60	60	
	実績値	52	54	56		
	達成度 (%)	87.0	89.7	93.3		-
目標値設定の考え方	税務課の家屋評価より (瓦葺き住家新築件数 / 住家新築件数) × 100 H17 82 / 157 × 100 = 52.2% 60%目標 H18 100 / 186 × 100 = 53.8% 60%目標 H19 95 / 170 × 100 = 55.9%					
資源配分 (インプット)	直接事業費 (千円)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	交付金	17,975	18,889	17,000	17,000	
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	17,975	18,889	17,000	17,000	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	737	718	722	722	
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1	
	事業量1(事業に要した日数)	12	12	12	12	
	事業量2(事業に要した人数)	2	2	2	2	
	年間経費([A]+[B])	18,712	19,607	17,722	17,722	
	「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	1.0	1.1	1.0	1.0	
受益者人数(157)1人当り経費(千円)	119.2	124.9	112.9	112.9		
経費に関する補足説明						

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

達成度	活動結果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価) 3	
		%	66.0	96.3	79.6	-		
有効性	(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 平成17年度とほぼ同件数の奨励金の交付ができた。また、ホームページや広報紙を通じて制度を広くPRすることができ、新築の交付件数が82件から100件に増えたことは評価できる。						自己評価 (5点評価) 4	
	成果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度		
		%	87.0	89.7	93.3	-		
	成果向上率	%	-	3.1	4.1	-		
効率性	(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 奨励金制度により、新築瓦屋根住家において淡路瓦の使用割合が昨年度に比べ2.7%アップできた。						自己評価 (5点評価) 4	
	活動実績1単位当り経費	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度		
		千円	114.8	124.9	141.8	-		
	効率性増減率	%	-	8.8	13.5	-		
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低				自己評価 (5点評価) 4
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 南あわじ市の基幹地場産業である瓦業界、阪神淡路大震災以降瓦業界の不況が続いており民間だけでは打破できない状況であるので、これまで通りの官民一体となった取り組みが必要である。また、淡路瓦屋根にしたい方でも経済面を考え、スレート屋根にする方が少なくない。奨励金の交付により、淡路瓦屋根の普及を促進し、薨街並み形成および産業振興に貢献する必要がある。							
総合評価	自己評価をふまえた現状分析		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>瓦業界の復興および産地としての街並み形成を考えると、意義のあるものと思う。ただし、今後周知が足りなかった部分もあるので広くPRをしていきたい。</p> <p style="text-align: center;">評価グラフ</p> </div>					
	<p>瓦業界の復興および産地としての街並み形成を考えると、意義のあるものと思う。ただし、今後周知が足りなかった部分もあるので広くPRをしていきたい。</p>							

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	当奨励金の需要が増えており、瓦産業への振興にも大きく寄与していることから、現状維持とする。	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	仮に 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 安価なスレート屋根への移行が進み、葺街並み形成が維持できなくなるとともに、瓦業界の低迷が続くと考えられる。	